

変革への挑戦

IT導入・デジタル化に取り組む

昨今、経営課題の解決手段の一つとしてDX（デジタルトランスフォーメーション）が取り上げられています。どのように取り組まれているか、会員企業の先進事例をご紹介します。

『プロジェクトM』 ～若手社員を中心とした社内のデジタル化～

藤工業（株）

社員の働きやすさを追求し、
若手社員の活躍の場をつくりたい

藤工業（株）は「プロジェクトM（見える化のM、みんなでのM）」を掲げ、社内のデジタル化を推進してきました。きっかけは①現場が困っていることにフォーカスした活動をした、②若手社員の活躍の場をつくり



工場内モニターには機械ごとの生産実績がリアルタイムで表示されています。

デジタル化推進の前は、受注体制と生産体制において多々問題が発生していました。受注体制では、1日7～8回の納期変更によるモチベーションの低下や、確認漏れなどのトラブルが発生していました。この対策として現場にモニターを設置し変

受注体制・生産体制の 見える化による作業効率の向上

たいという2点からでした。現場で発生する問題を未然に防ぐことによる働きやすい職場づくりを目指すほか、考えや感性の新しい若手社員のアイデアを活かすことに重点を置き、若い社員を中心としたプロジェクトMを発足させました。もちろん、企業として事業活動から利益を生むことが目的ですので、作業効率を向上させ、売上アップを行うことを大きな目標としています。

更情報をすぐ確認できるようにしたほか、現場作業者にタブレットを配布し進捗・完了情報入力ができるようにすることで受注体制の「見える化」を実現しました。

生産体制では1日1回の進捗報告のため、現場側は「今日いくつ作ればいいのかわからない」、事務側は「受注をどこまで受けていいのかわからない」という問題がありました。そこで、無料版の「生産性見え太君」というアプリを活用し、生産量の見える化を図りました。目標が明確だと作業員の意識の向上につながり、必要な生産量を効率よく生産できるようになりました。そしてその後、同社の生産体制により合わせるため、新たなシステム「リアルEye」の開発をシステム会社へ依頼しました。このシステムにより、さらに正確な生産量データを得ることができ、生産体制の「見える化」による生産性向上を実現しました。



岩槻第三工場内では生産管理システム「リアル Eye」が使用されています。

TOOL

- 生産性見え太君
- クラウド型動画マニュアル作成サービス
- リアル Eye

DATA

- 住所
さいたま市岩槻区古ヶ場 2-7-1
- TEL
048-795-0075
- 事業内容
建物用鉄筋の加工・運搬・施工事業
- HP

<https://www.fuji-kogyou.jp/index.html>



動画マニュアルサービスの 導入による作業の標準化

同社では従来まで作業の標準化が未確立で、監督者により作業の指導内容が異なっていました。さらに外国人を雇用しており、多言語対応が必要なため、問題が複雑化していました。そこで、監督者によって作業方法に差が出ないようクラウド型の動画マニュアルサービスを導入しました。結果、従業員の作業を標準化することもできました。

メッセージ

自社の問題をデジタル化にて 解決しようとお考えの方へ

企業がそれぞれ、自社に合ったシステムや機械を導入することが重要だと思います。大きい（高額）ものが良いわけではなく、小さい（安価）ものでも使えるものはたくさんあります。自社の問題や課題を明確にした上で、最適なツールを自身で選択することが大切だと思います。